

「人間の一生はね、ずっと教育なのだよ。輪のようにつながっている。しかもその輪の中で一番多くの時間を過ごす場所は、大半の人は企業・会社です。その企業・会社での教育が大事なのです。」

島根県雲南市の教育長のこの言葉を聞いた時、地元から都会への若者の流出に危機感を抱いていた著者は、「眼前がパッと開ける思いがした」。その瞬間、「建設×教育」を事業の柱に定めた。それが「地域建設業の使命である『地域を守る』ことにほかならない」と思った。本書のタイトルは「人を育てる」となっている。しかし、人

## 「建設×教育」を目指す

新刊『人を育てる～新・日本型経営のすゝめ』



著者の小野貴史氏

材育成のノウハウを単に解説したものではない。内容の大半は、新潟県胎内市の地域建設業である小野組の経営者である著者が、人材を育て、経営を維持していくため、自ら学び、行動する中で重ねた思考の軌跡である。約10年前、会社の売り上げがピーク時の半分に落ち込み、進むべき方向の選択を迫られた。その時、著者は「様々な伝手

(つて)を辿って外部へ、なるべく見知らぬ外部へ「学び」を求めた。なぜなら「未熟で世間の狭い私の手の届くところに満足な解など存在するわけがない」と考えたからだ。その行動と人との出会いが事業の拡大につながった。さらに、地域を守る「建設×教育」への挑戦は、いずれも「た日本式経営の人事評価制度である「職能資格制度」に、欧米式の「職務等級制度」のメリットを加えた「ハイブリット型人事評価制度」を提唱。雇用者と被雇用者の「連携と協働」の重要性を訴える。(グッドブックス、1500円・税抜き)

新日本型経営のすゝめ

# 人を育てる

「働き方改革」では、会社も社員も守れない。地域と共に歩む6代目社長の人材育成システム再構築宣言

小野貴史

た日本式経営の人事評価制度である「職能資格制度」に、欧米式の「職務等級制度」のメリットを加えた「ハイブリット型人事評価制度」を提唱。雇用者と被雇用者の「連携と協働」の重要性を訴える。(グッドブックス、1500円・税抜き)